大分県杵築市　旧城下町の坂　全調査

All Slopes in Downtown Historic District,Kitsuki city,Oita

瀧山幸伸

PDF 版　２０１８年１月７日

最新版及び写真動画類は以下の URL

http://japan-geographic.tv/oita/kitsuki-saka.html

目次

１．概要と結論
２．当資料の目的
３．地理・歴史的背景
４．調査手法と事前準備
５．現地調査
６．整理結果
７．提言
８．添付資料

１．概要と結論

2017 年 12 月 2 日、現地調査を行った結果、以下に示す 38 か所の坂を「杵築旧城下町の坂巡りに適した坂」として推薦したい。坂巡り地図への採用、坂めぐりスタンプラリー、各種イベント、坂説明版の設置などに活用していただければ幸いだ。

現在の杵築散策マップには 14 か所の坂が表示されているが、杵築の坂は景観的にも文化的にも質が高く、バラエティーに富み、高密度であり、車が少なく比較的安全であることはあまり知られていない。

坂のほとんどが急峻で、景観がドラマチックである。四囲は風光明媚で、城下町の歴史と文化が色濃く残り、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定された街並と坂が調和していて実に美しい。坂は高密度で、1 平方キロメートルあたり 42 の坂密度は、都市クラスの城下町の中では日本一の高密度だ。

多くの人はコレクター癖（スタンプラリー等）があり、坂の数が増えれば訪問者の滞在時間が増え、消費金額が増加する。一度で坂の制覇が不可能な場合、宿泊や再訪の増加にもつながる。観光客がもたらす経済効果は一人一日あたりの消費金額と延べ日数に比例するので、宿泊を伴うと一人一日あたりの消費単価が激増し、延べ日数も増加すれば経済波及効果が大きい。

全国でも稀な、安全で美しい坂群を効率よく楽しめる城下町として、日本随一の地位をさらに継続発展していただくことを願っている。

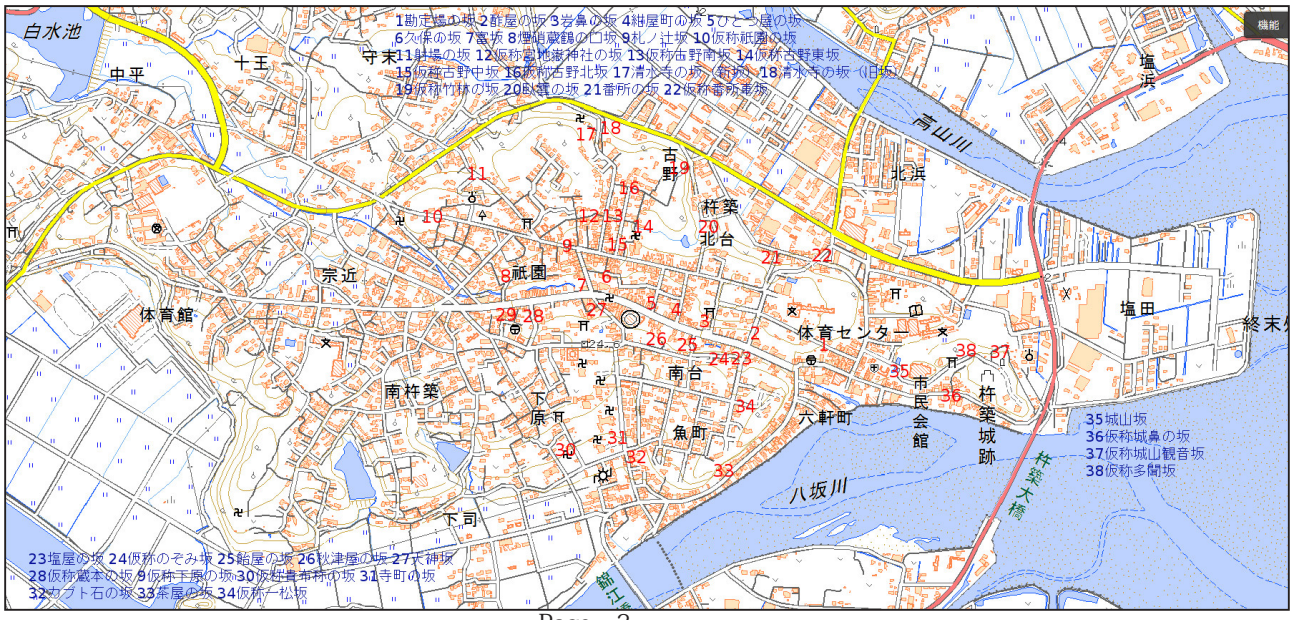
■■■「杵築旧城下町の坂巡りに適した坂」
（一筆書きで巡れる順番に並べた）
■　北台地区　（勘定場の坂から時計回り順）
1 勘定場の坂
2 酢屋の坂
3 岩鼻の坂
4 紺屋町の坂
5 ひとつ屋の坂
6 久保の坂
7 富坂
8 煙硝蔵鶴の口坂
9 札ノ辻坂
10 仮称 祇園の坂
11 射場の坂
12 仮称 宮地嶽神社の坂
13 仮称 古野南坂

14 仮称 古野東坂
15 仮称 古野中坂
16 仮称 古野北坂
17 清水寺の坂（新坂）
18 清水寺の坂（旧坂）
19 仮称 竹林の坂
20 臥雲の坂
21 番所の坂
22 仮称 番所車坂

■　南台地区　（塩屋の坂から反時計回り順）
23 塩屋の坂
24 仮称 のぞみ坂
25 飴屋の坂
26 秋津屋の坂
27 天神坂
28 仮称 蔵本の坂
29 仮称下原の坂
30 仮称 貴布称の坂
31 寺町の坂
32 カブト石の坂
33 お茶坂
34 仮称 一松坂

■杵築城跡地区　（城山坂から反時計回り順）
35 城山坂
36 仮称 城鼻の坂
37 城山観音坂
38 仮称 多聞坂

■■■坂地図　（2017 年末　暫定版）



■■■　現地調査の動画
YouTube に UP している。　https://youtu.be/Y5bB6FyF2Sw

■■■坂のファクトシート
杵築を代表する三つの坂　勘定場の坂　酢屋の坂　塩屋の坂
坂の最高地点　仮称宮地嶽神社の坂から分岐した坂の突当り、標高 36.9m
最も急な坂（最大斜度）　台の茶屋坂　27 度
眺望が良い坂　勘定場の坂　酢屋の坂　塩屋の坂　岩鼻の坂　久保の坂　煙硝蔵鶴の口坂　仮称のぞみ坂　天神坂　仮称貴布称の坂　仮称一松坂
海が見える坂　勘定場の坂の頂部　仮称一松坂の頂部
日の出が美しい坂　勘定場の坂　仮称一松坂　ほか
夕日と日没が美しい坂　久保の坂　仮称一松坂　ほか
夜景が美しい坂　仮称一松坂　酢屋の坂　塩屋の坂　ほか
寺とカトリック教会と神社の鳥居が一度に見られる坂　寺町の坂頂部
植生と野鳥が楽しめる坂　城山坂　城山観音坂　仮称多聞坂　仮称竹林の坂　清水寺の坂（新坂）　清水寺の坂（旧坂）　仮称貴布称の坂　お茶坂

２．当資料の目的

杵築旧市街の街並については、過去数回の調査を行っているが、今回 (2017 年 12 月 2 日)、所属する坂学会の巡検先となったのを機に、旧城下町内に所在する全ての坂の調査（悉皆調査）を行い、坂に限定して総合的にまとめることとした。坂学会の巡検について、公式記録の前例はないので、個人的な記録とし、坂学会ウェブサイトに寄稿する予定である。(当論考は坂学会ウェブと相互リンクすることを予定している。)

３．地理・歴史的背景

（1）　地理

特徴その 1　極めて急峻で景観の良い坂

坂の性質を知るには、坂が形成された地形と地質を知ることが重要だ。杵築の旧市街は、国東半島の南端部、八坂川と高山川が守江湾に注ぐ河口部に位置する二筋の台地である。守江湾は干潮時に干潟が拡がる遠浅の湾で、対岸には砂嘴地形の住吉浜がある。

　詳しくは地質専門家の調査に委ねたいが、これらの台地は鹿鳴越火山と沖積砂礫層により形成されたもので、北に接して国東半島の主体となっている粘性の高い二子山火山とは異なるが、阿蘇 4 火砕流の影響も受けて今の地形を形成していると考えられる。旧市街地の東部は杵築城跡である。旧市街地北側の台地は北台と呼ばれ、南側は南台と呼ばれている。杵築城跡、北台、南台ともに丘陵状の台地であり、これらの周囲のうち、東側、北側、西側は海食の影響を受けて特に急峻であり、西側は河川の浸食によるのでなだらかな傾斜である。全体が島であったものが隆起して今の地形ができあがったものと考えられる。

　台地部分の微地形を見てみると、北台の最高地点は西側の八坂神社の北に位置する小丘陵で、緩やかに東西に下っている。南台の最高地点は東端の一松邸付近で、緩やかに西に傾斜している。
この地形が土台となっているので、杵築旧市街の坂のうち、各台地の東側と南北側に位置する坂は極めて急峻で、西側に位置する坂は緩やかである。多くの 坂が極めて急峻であることから、静止して観るスタティックな景観も歩きながら変化するダイナミックな景観も非常に良好である。

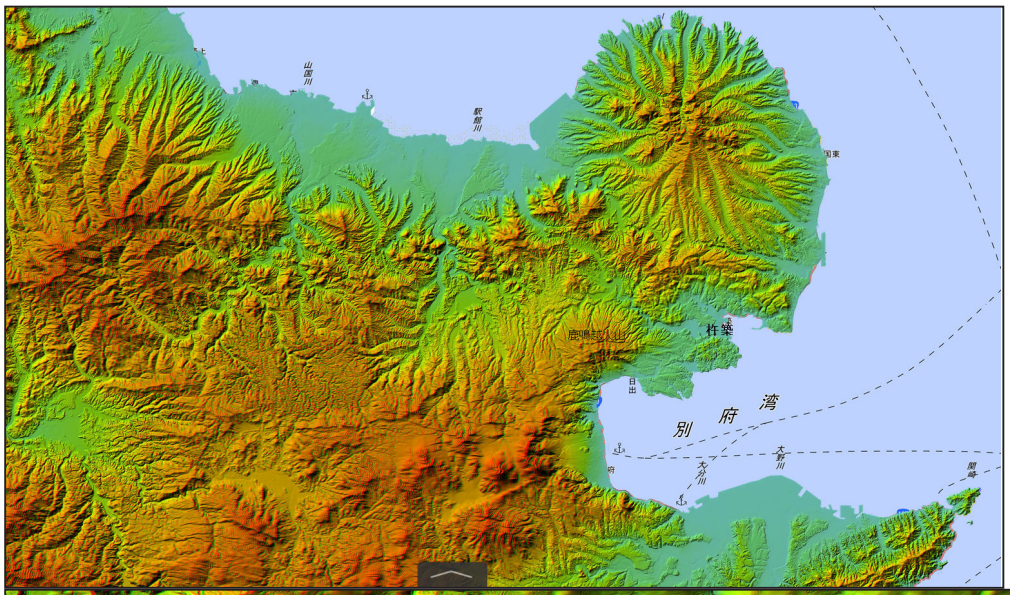
特徴その２　乾いて歩きやすく崩れにくい坂

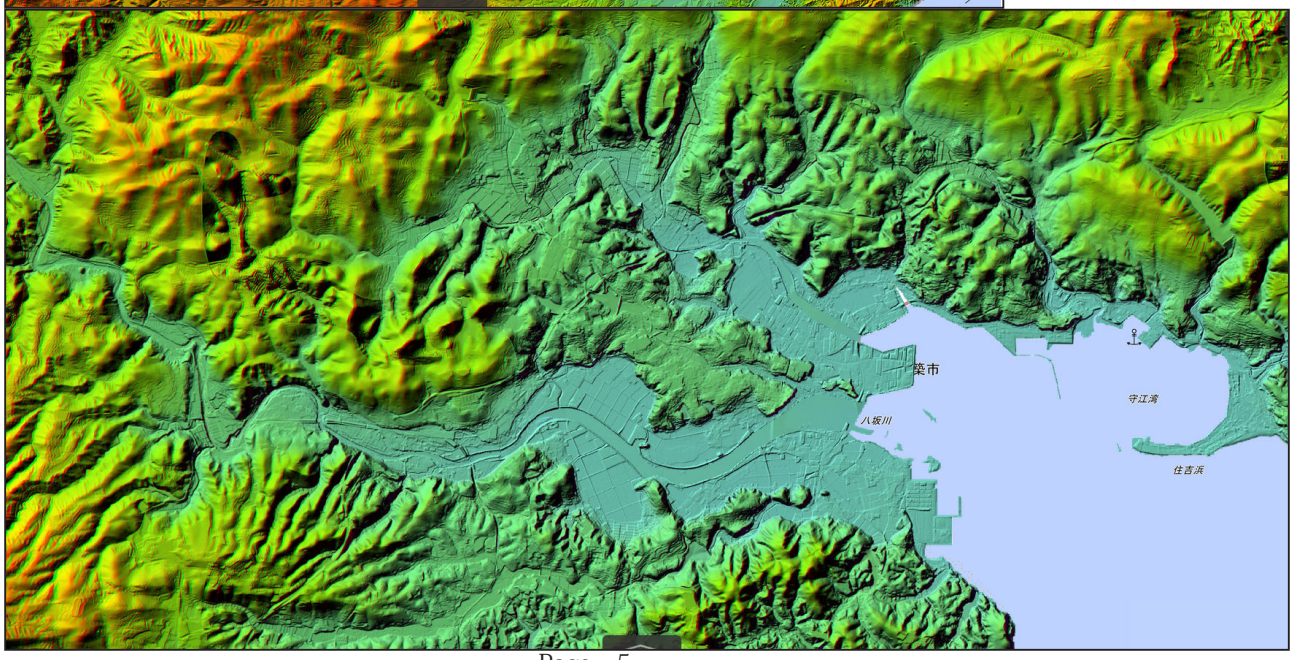
台地の幅が狭く、崖が急峻であることと、砂礫層と火砕流による地質であることから、台地部分は保水力がない。水はけが良いので、かつての江戸東京の坂のように雨が降ればぬかるんで転びやすいということもなく、舗装が無い時代でも歩きやすい坂であったと考えられる。さらに、上記の地質ゆえに、鹿児島地方のシラス台地の坂とは異なり土砂崩れは比較的少なかったと思われ、急峻な割には比較的安全な坂であったと考えられる。

特徴その３　高密度な坂の街並

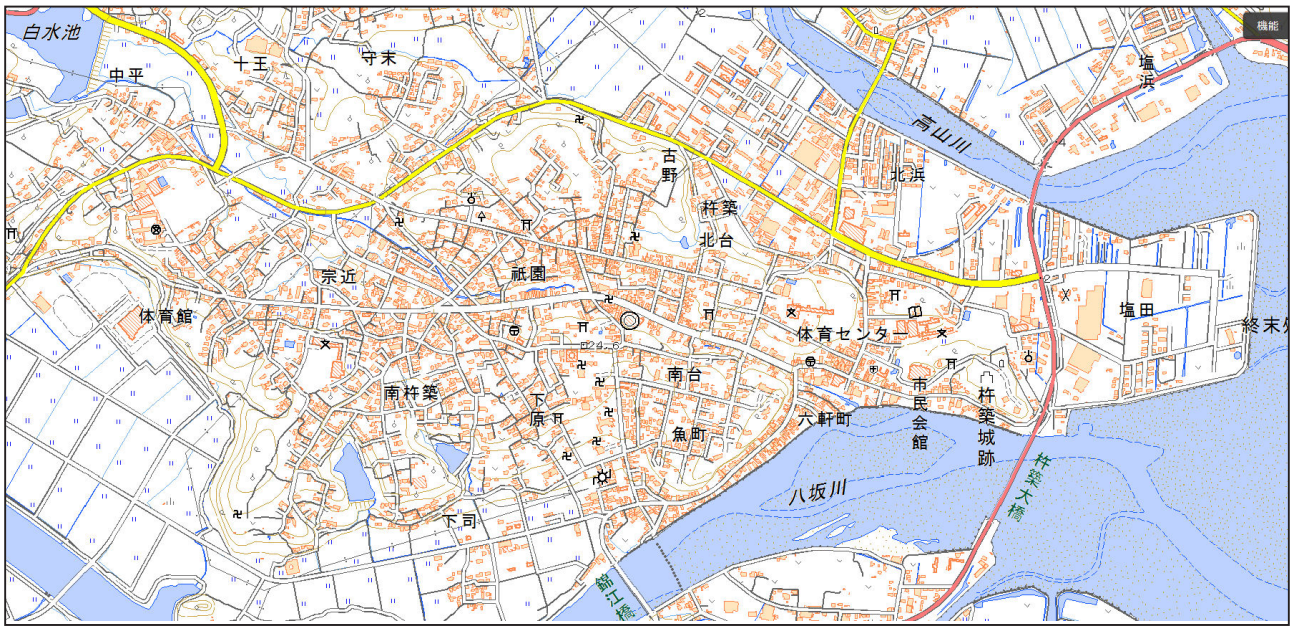
対象地域の面積は約 0.9Km2 で、調査の結果 38 の坂があるので、1 平方キロメートルあたり 42 の坂が存在することとなり、日本有数の高密度な坂の街並と言える。都市クラスの城下町の中では日本一だ。漁村の愛媛県外泊や農村の鹿児島県大当、工業都市の愛知常滑などの小さな区域を除き、全ての街並を対象としても日本有数の密度だ。ちなみに、名前がある坂が多い街並として知られる長崎中心部は 3Km2 に 35 ほどの坂、金沢中心部は 7Km2 に 53 ほどの坂、常滑中心部は 0.1Km2 に 16 ほどの坂、函館元町付近は 1.2Km2 に 24 ほどの坂が存在する。これらも無名坂に名前を付ければ杵築と競い合うだろう。

資料１・資料２　国土地理院アナグリフ地形図（右目に青、左目に赤のフィルムを貼ったメガネを通して見ると立体的に見える）





資料３　国土地理院　地形図



阿蘇４火砕流の顕著な露頭は、崩落保護コンクリートのため現地では確認しづらいが、杵築城の台地南側である程度確認される。

阿蘇４火砕流についてさらに詳しく、近隣の類似した地形で下層から最上層まで確認できる露頭を探した。杵築市南部、日出町との境に位置する金輪島付近の露頭が参考となる。

（2） **歴史**

城下町ゆかりの坂
杵築城は島状の小丘に立地し、水に囲まれ防御に優れた海城である。九州の関ヶ原とも呼ばれる、東軍黒田官兵衛・細川忠興連合軍と、西軍大友義統らとの激戦地となった「木付城の戦い」は地勢的に必然であったが、地理を知り尽くした軍師官兵衛の勝利で終わった。ただし、杵築城の立地が完璧かというとそうでもない。同じ大分県の臼杵城も島状だが、包囲されやすい。一旦包囲されると退路が断たれ、籠城戦には適さない。この点は、秀吉の九州平定において、海に近いが背後に進退路と補給の稜線を持つ熊本県の佐敷城よりもはるかに防衛力が劣る。佐敷城でさえ攻められているので、杵築城の防衛能力には限界があったと言わざるを得ない。
　城の北側崖下は低湿地で、旧藩主館である。城の南側崖下は船溜りとなっており、海上物流の拠点であった。ここから西側、北台と南台の間は谷で、そこに町屋の主要部が形成された。北台は主に武家町である。南台も武家町であるが、西側は寺町として城下の防御機能を備えている。南台の東端部は断崖となっており、その直下に魚町がある。
杵築の旧城下町には六ケ所の番所が設けられていた。城下町の西側の端は八坂神社、札の辻付近で、ここに馬場尾口があり、この門が唯一外部からの城下入りが許された。そこから順に時計回りに、清水寺口、北浜口、魚町口、城鼻口、寺町口があった。台地には城主ゆかりの茶屋などの施設があった。北台の磯矢邸と臥雲の茶屋、南台の寺と台の茶屋など、杵築の坂には城下町特有の城主の施設や行事と関係深いものがある。

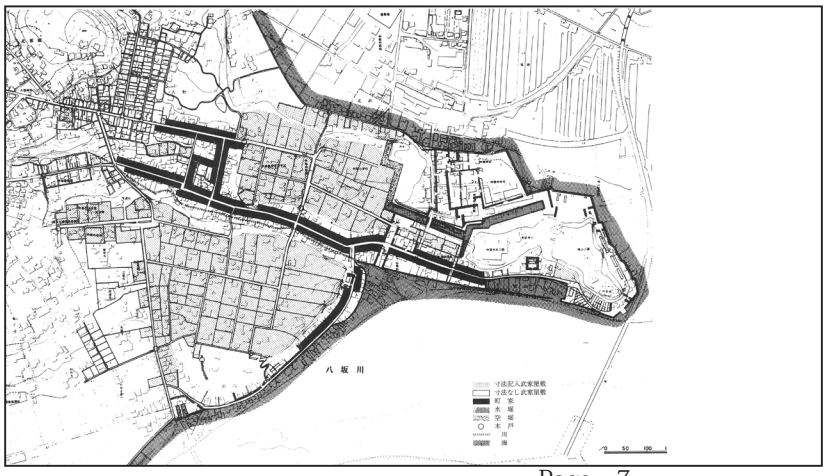
4．調査手法と事前準備

（1）調査範囲

旧城下町の範囲は古地図でおおよそ判別できるが、直近の資料が良い参考となる。
杵築市は 2017 年 11 月に国の重要伝統的建造物群保存地区にふさわしいとして文化審議会答申がなされたので、その際の資料である。

杵築市伝統的建造物群保存地区保存審議会の資料
資料 4　平成 28 年度第 1 回　平成 28 年 10 月 28 日　　杵築市南北両台伝統的建造物群保存地区（案）
資料 5　平成 28 年度第 3 回　平成 29 年 2 月 23 日　　杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区（案）
資料 6　平成 29 年度第 1 回　平成 29 年 6 月 5 日　　杵築市北台南台伝統的建造物群保存地区保存計画

これらの資料はいずれも詳細に検討されたもので、大いに参考となる。その中で、資料２Ａの「③杵築市南北両台伝統的建造物群保存地区判定資料」の検討範囲（北・東・南側は網掛部分内、南西側は検討範囲内、北西側は八坂神社付近まで）を旧城下町の範囲と仮定して調査対象とする。
寺町を含めるかどうか等、西側の境界は不明確なので、当日の調査状況によって範囲を確定する。



（２）坂の定義

坂の定義は定説がないので、従来からの自分の解釈を暫定的に適用する。
http://japan-geographic.tv/special/saka/intro.html
自動車専用道や鉄軌道等も対象となるが、杵築には該当はない。

（３）調査準備

現地調査に先立ち、調査方法の整理と机上調査を行う。

A　坂の調査票

調査項目と項目の定義は以下のとおりとする

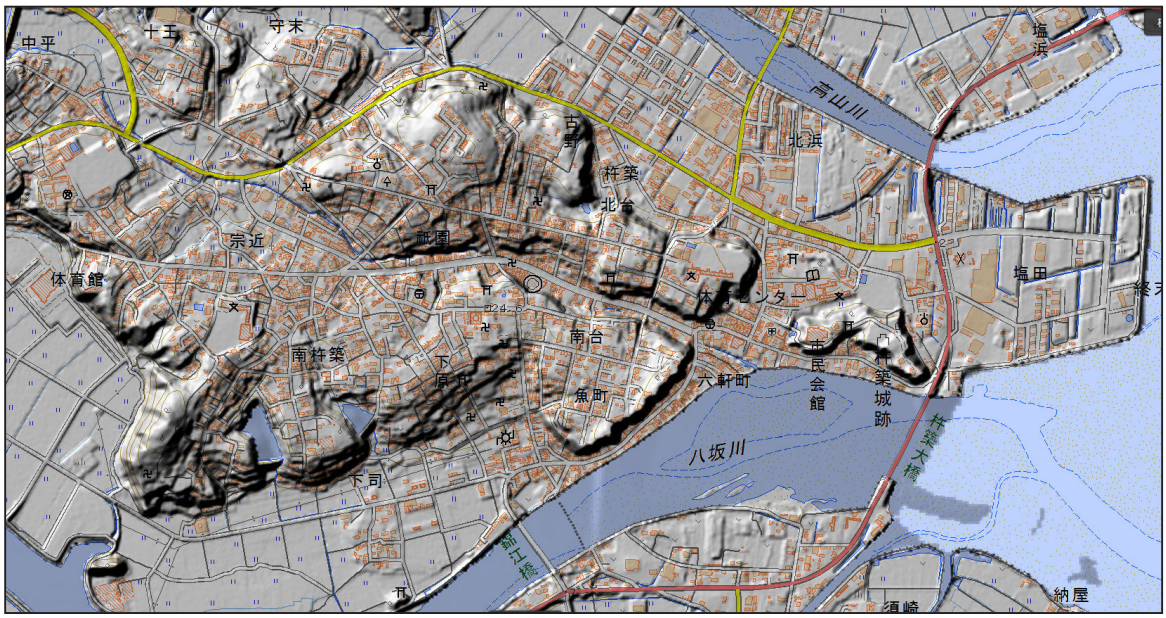
机上調査の仮番号
調査検討後の正式番号
調査日
調査者
坂名（よみ）
坂別名（よみ）（複数可）
所在地
　坂基点（坂下）から坂頂点を見て左側にある行政上の住居表示とする。
地図へのリンク
　著作権問題の回避と汎用継続性を考慮し、民間の電子地図システムではなく、国土地理院の電子地図を使用する。
付近のランドマーク
　景観上目に付く固定物全て。店舗名、現住個人名などの表記は控える。
坂の方向
　坂基点から上る方位。「南東」などの八分位。
総延長
　電子地図で計測する
最大斜度
　長さ 1m の棒を傾斜に沿わせ、斜度計で度数を測る。今回は簡易的にスマートフォンの傾斜アプリで計測するが、誤差が大きいので注意する。
最小幅
　道路の有効幅員。実際に車が通れる走れる幅。車道と歩道が分離している場合はそれぞれを計測する。定義には側溝等を含めた幅員を採用する別論があり、今回は測定を省略。
最大幅
　同上
坂基点の経緯度と標高
　基点は B（Base Point) と表記する。経緯度と標高は電子地図で計測する。基点の位置は最低地点を基本とするが、交差点など認知上重要なランドマークを指定することができる。
坂頂点の経緯度と標高
　頂点は T（Top Point) と表記する。経緯度と標高は電子地図で計測する。頂点の位置は最高地点を基本とするが、交差点など認知上重要なランドマークを指定することができる。
坂の形態

　歩道、階段、舗装仕様など
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　俚言・推測等含む。場合により公図や道路台帳を参照する
坂に関するエピソード等
　書籍創作物等、地元住民の思い出、行事等
Point of Interest
　観光目的で景観工学的見地の Picture Spot だけでない。人文科学では、有形文化財（建造物など）・史跡・名勝などの文化財はもちろん、故事来歴など。自然科学では、科学教育的見地から、植生、特徴ある鳥とさえずり、水音、地質などを学び楽しむ場所。
現地で記録した写真・動画・音など
　記録した場所と時間を記録する。場所は GPS 付きカメラで記録可能。時間は Exif またはファイル情報に保存する。
その他

B　机上スキャン

住宅地図、古地図、国土基本図、民間地図、杵築散策マップ（観光協会作成）など可能な限りの図面を使い、便宜上、機械的に最東端から最西端の順に行う。
標準図を国土地理院の電子地図とし、DEM 5A（5m メッシュの航空レーザによる標高情報）を使った陰影起伏図と傾斜量図を作成する。この図を参照し、坂の存在場所を調べる。

資料７　陰影起伏図
（北西の方向から地表面に向かって光を当て、凹凸のある地表面の北西側が白く、南東側が黒くなるよう作成した図。尾根線、谷線の判別や断層の判読などに活用できる）

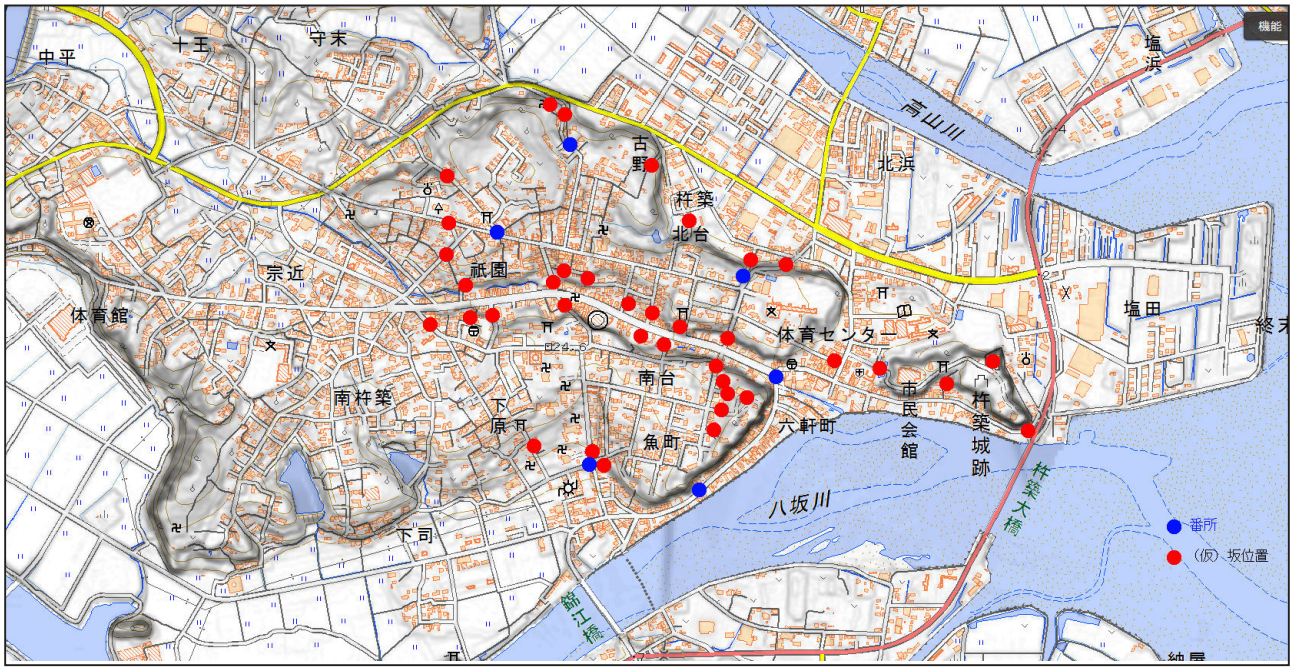


資料８　傾斜量図

（地表面の傾きの量を算出し、その大きさを白黒の濃淡で表現したもの。白いほど傾斜が緩やか、黒いほど急峻。台地、段丘、山地、火山地形、地すべり、断層などの地形判読などに活用できる）

第一優先は東から、東の同列上にある場合は第二優先として北から、順に坂基点（最低点）を発見し、仮番号を採番する。坂基点から複数の坂が分岐する場合、坂頂点が東に位置する坂の順に採番する。

資料９　坂の机上スキャン図（西側は多めにスキャンしている）



坂の仮番号リスト

1　杵築城、天守直下の坂　古地図に見られる、海岸の番所から天守閣につながる階段。現状は消滅か。
２　杵築城、北側の杵築中学からの坂
３　杵築城、南側の船溜りからの坂
４　杵築城、大手門からの坂
５　勘定場の坂
６　バスターミナルからの坂
７　番所の坂
８　きつき城下町資料館北東側の坂
９　酢屋の坂
１０　塩屋の坂
１１　中根邸北側の坂
１２　中根邸からきつき城下町資料館への坂
１３　きつき城下町資料館南側の坂
１４　きつき城下町資料館から一松邸への坂
１５　南台から一松邸への坂
１６　セブンイレブンから北台への坂
１７　岩鼻の坂
１８　飴屋の坂
１９　紺屋町の坂
２０　飴屋の坂の西側にある坂
２１　R5 番館から北台への坂
２２　ひとつ屋の坂
２３　カブト石の坂
２４　寺町の坂
２５　久保の坂（東側）
２６　久保の坂（西側）
２７　清水寺の坂（旧道）
２８　清水寺の坂（新道）
２９　天神坂
３０　富坂
３１　貴布称神社の坂
３２　商工会館から南台への坂
３３　小宮写真館から郵便局への坂
３４　奥田税理士事務所の坂
３５　射場の坂
３６　地裁の坂
３７　田川歯科の坂
３８　五差路から郵便局への坂

C　情報の記入

作成した坂調査票を可能な限り事前記入する。

５．　現地調査

机上調査で作成した坂調査表を持って現地調査する。
地元の指導者に付き添って調査を行う。
現地で追加された坂は、最も近い坂の枝番として仮番号を採番する。
現地の状況を、写真、音、動画で記録する。
坂基点・頂点の経緯度、標高は机上で計測可能。（国土地理院の電子地図（標高は DEM5A）を基準とする。）
坂の最小最大幅・最大斜度をメジャーと傾斜計で計測する。
付近にお住まいの方や通行中の方に、調査の目的を説明してヒアリングを行う。その際、身分証明（免許証でも可）をカードホルダーに入れて首から下げる。

（１）　現地調査　Dec.2,Dec.3（予備日）2017 瀧山幸伸 movie

Dec.2（土曜日）
参加者　杵築市・坂学会合同調査チーム
杵築市側　杵築歴史研究会会長 杉安氏、杵築市長 永松氏、杵築市観光課長 黒田氏
坂学会側　原、井手、磯谷夫妻、佐久間、武田、瀧山夫妻

現地側の参加者は地元に詳しい方ばかりで、詳細かつ貴重な情報を得ることができました。休日にもかかわらずご参加いただき、深く感謝いたします。
また、杉安氏は事前に杵築の坂に関する資料をまとめてくださった。

資料 10（末尾に添付）杵築の坂調査資料　2017 年 11 月　杵築歴史研究会会長 杉安氏作成

（２）　補足調査

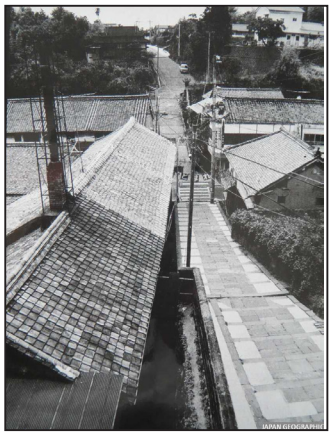
現地調査の結果を当日のうちに極力整理する。疑義や漏れが生じた場合、翌日以降に再調査を行った。必要に応じて現地関係先等に問い合わせを行った。
黒田氏からは古写真を送っていただいた。これらも大いに参考になった。

塩屋の坂から酢屋の坂を望む　1928 年

酢屋の坂から塩屋の坂を望む　1955 年

塩屋の坂から酢屋の坂を望む　1977 年

酢屋の坂から塩屋の坂を望む　1977 年



酢屋の坂下から　1977 年

富坂　1977 年

6．整理結果

（1）「杵築旧城下町の坂巡りに適した坂」として以下の坂リストを作成した。

仮番号　正式名称または仮称

2　仮称多聞坂　杵築城、北側の杵築中学グランドからの坂

2A　城山観音坂

3　仮称城鼻の坂

4　城山坂

5　勘定場の坂

6　仮称番所車坂

7　番所の坂

9　酢屋の坂

１０　塩屋の坂

１０A　仮称のぞみ坂　塩屋の坂と飴屋の坂との間の坂

１５　仮称一松坂　南台から一松邸への坂　（以前の現地調査）

１６　臥雲の坂

１７　岩鼻の坂

１８　飴屋の坂

１９　紺屋町の坂

２０　秋津屋の坂
２１　仮称竹林の坂　R5 番館から北台への坂
２２　ひとつ屋の坂
２３　カブト石の坂
２４　寺町の坂
２５　久保の坂
２７　清水寺の坂（旧坂）
２８　清水寺の坂（新坂）
２９　天神坂
３０　富坂
３１　仮称貴布称の坂
３２　仮称蔵本の坂
３３　仮称下原の坂
３４　煙硝蔵鶴の口坂
３５　射場の坂
３６　仮称祇園の坂
３９　札ノ辻坂
４０　仮称宮地嶽神社の坂
４１　仮称古野南坂
４２　仮称古野北坂
４３　仮称古野東坂　（以前の現地調査）
４４　仮称古野中坂　（以前の現地調査）
４５　お茶坂

リストから除外した坂

1 杵築城、天守直下の坂
　存在確認できず。
８　きつき城下町資料館北東側の坂
　杉安氏、黒田氏に確認し、今回は重要度が低いため現地調査せず。坂頂点で閉鎖されており、杉安氏、黒田氏によると坂下まで通じていないと聞く。
１１　中根邸北側の坂
　現地調査の結果、坂ではなく敷地延長（通用口）であることが判明した。
１２　中根邸からきつき城下町資料館への坂
　杉安氏、黒田氏に確認し、今回は重要度が低いため現地調査せず。
１３　きつき城下町資料館南側の坂
　杉安氏、黒田氏に確認し、今回は重要度が低いため現地調査せず。
１４　きつき城下町資料館から一松邸への坂
　杉安氏、黒田氏に確認し、今回は重要度が低いため現地調査せず。
３７　田川歯科の坂
　城外なので今回は調査せず。
３８　五差路から郵便局への坂
　城外なので今回は調査せず。

（2） 坂のグループ化
坂リストの順番を、地域別に、一筆書きに回れるように並べ直した。（1．概要と結論）に表示

（3） 坂地図の作成 （1．概要と結論）に表示

（4） 坂のファクトシート作成
坂の特徴を表すファクトシートを作成した。（1．概要と結論）に表示

6．提言

このような美しい坂を守ってきてくださった地元へのお礼として、提言やフィードバックなどを行う。

提言１　城跡の整備と戦国物語での連携

杵築城跡の区域は、戦国末期を主とした歴史的な価値が大きいにもかかわらずあまり有効活用されていない。
整備にはかなりの費用を要するが、使途を特定したふるさと納税や寄付は、サクラダファリミア教会のような成功例を模範に検討されたい。国際的な観光促進による経済効果が期待されるので、新規の補助金も活用し、整備が促進されることを願っている。
　堀の整備
　市民文化会館などの撤去
　城館跡の整備
　木付氏旧城（竹ノ尾城跡）の整備
　日出城跡との連携
　杵築城の戦いと関連がある (黒田官兵衛、秀吉、大友宗麟など)、あるいは同様な戦いがあった史跡との連携（例えば九州では中津城、大分城、名護屋城、佐敷城など）

提言２　国東半島・宇佐・中津地域の広域連携

国東半島と宇佐中津を含む地域は、世界遺産に値する文化遺産と自然遺産が織りなす複合遺産に溢れている。過去の国東半島に限定した世界遺産申請案にこだわらず、地域の潜在的魅力をリスト化し、国内のみならずインバウンド観光客向けにもプロモーションすることが重要であると思われる。
地域の潜在的魅力を持った複合遺産あるいは文化遺産としては、既に杵築の循環型農業遺産が世界農業遺産に認定されているが、単独での訴求力は限定されている。
リスト化によるスタンプラリー化、ツアー化は、インバウンド観光客が好む体験価値が高く、プロモーション効果が高い。
今回の結果を踏まえ、「杵築の坂群」がスタンプラリー化されれば、魅力度の高い文化遺産群となる。同様に、「国東半島六郷満山の寺院・摩崖仏・石造物群」は言うまでもなく、「院内を主とする石橋群」、「安心院を主とする鏝絵群」、「棚田や荘園」、耶馬渓ほかの「修験に関連した岩峰や滝」などをリスト化し、ツアーパスを発行することにより、地域全体でプロモーションすることが肝要である。そうすることにより、訪問者の興味を顕在化することができる。特に安心院を主とする鏝絵群」は、個人の敷地内に立ち入らなければ見られない鏝絵も多く、個人宅にも迷惑がかかるため、このようなツアーパスの収益を地元に還元するシステムが重要となる。

ただし、その推進にあたっては、観光協会などの非営利団体だけではなく、教育委員会などの文化財管理部門との連携が必須である。

観光事業者は文化財に関心が薄く、短期的な収益に直結しないと思い込んでおり、専門知識も乏しい。
文化財管理部門は収入が保証されており、手間がかかる営利事業への協力に関心が薄い。理由なく非公開や撮影禁止としている教育委員会も多く、「予算がない」という言い訳で済ませている。
だが、双方が協力しなければ地域経済は衰退の一途をたどり、自治体としての存続も難しくなっているのが地方の実情だ。
ぜひこの地域で広域連携モデルを成功させていただきたい。

提言３　杵築城下町ウォーキングガイドライン

ガイドラインの目的は、ウォーキングを楽しむ訪問客の増加と、観光関係者だけでなく地域全体の発展に寄与することである。
このようなガイドラインは、観光による健全な地域発展に欠かせないが、多言語で統合的なマナーコードやガイドラインを作っている地域は寡聞にして知らない。
ただし、祭事、特に文化財に関する催事などでは主催者や管理者による「ペット禁止、三脚、フラッシュ、ドローン禁止」などの規制やガイドラインが徹底されており、杵築の城下町は重要伝統的建造物保存地区という重要な文化財であるので、それを発展準用するものと考えれば特殊なことではない。
過去の調査で遭遇した残念な場面は、団体観光客の迷惑行動だった。美しい街並や坂の景観を損なうカラフルな衣装や靴・バッグ・旗、嵐の行軍のような急ぎ足、大声と自撮り棒とふざけたポーズ、個人敷地内への無断侵入、喫煙など、地元住民への迷惑はもちろん、和服でのんびりウォーキングを楽しむ訪問客にも迷惑となっていた。
具体的には、美しい坂を持つ街並に調和する個人客を増やし、団体客に認知と自制を呼びかける目的とし、以下のような項目を詳細に検討する。

・推奨事項　（体験型、リピート型、交流型の観光）

　個人（いわゆる FIT(Free and Independent Traveller）個人や家族などの小グループ）でのウォーキングを推奨する。団体は現地で個人として行動すれば OK。
　街並と坂に調和する服装、特にレンタル和服を推奨する。全国各地からの和服の寄付者やふるさと納税者には地元での宿泊などの優待を行う。
　ウォーキングのみならず、たっぷりと時間をかけて施設を巡り、歴史や文化を知ることを推奨する。
　地元での飲食宿泊を通じ住民と交流する。杵築市内での宿泊客には各種優待チケットを配布する。
　杵築坂マスター、杵築歴史文化マスターなどの取得者は杵築アンバサダーや名誉市民として優待する。

・非推奨事項　（団体型、一過性型の観光）

　地元や個人客の迷惑となる行為（景観や騒音などでアンビエンスを乱すこと、無断立ち入り、自撮り棒の使用、バスのアイドリング、指定場所以外での駐停車や乗降、指定場所以外での集合・飲食・喫煙など）
　どうしても団体行動が必要な場合は、施設周遊券に迷惑料を加えた「団体行動割増チケット」を購入してもらい、地元住民に還元する等々の条例も必要だろう。

添付資料

坂の個別調査票（写真や動画はウェブページに掲載している）

杵築の坂調査資料　2017 年 11 月　杵築歴史研究会会長 杉安氏作成（資料 10）

1　勘定場の坂

杵築を代表する３つの坂の一つ。

机上調査の仮番号　5
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月２日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　勘定場の坂（かんじょうばのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　北台武家屋敷と藩校跡。
坂の方向　西
総延長　100m
最大斜度　９度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416205,131.622171　3.6m
坂頂点の経緯度と標高　33.416666,131.621114　18.8m
坂の形態
　歩道、直線、階段
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の２番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂頂点付近から見た坂と杵築城と海が構成する景観が特に美しい。坂基点から見上げる坂と武家屋敷の景観も美しい。磯矢邸（市文化財）、藩校の門とその周辺（市史跡）、能美邸、大原邸（県有形文化財）は重要伝統的建造物群保存地区の中核を成す。坂基点付近の杯状石。石段には富士、扇などに似た形があり、石探しが興味深い。
現地で記録した写真・動画・音など

２　酢屋の坂

杵築を代表する３つの坂の一つ。

机上調査の仮番号　9
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　酢屋の坂（すやのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　大原邸（県文化財）、綾部みそ屋（市文化財）
坂の方向 北
総延長　90m
最大斜度　12 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416326,131.619601　4.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.417132,131.619912　19.9m
坂の形態
　歩道、直線、石張り
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 4 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂頂点からは逆光となるが、俯瞰した酢屋の坂と、その先にある塩屋の坂、南台の景観が素晴らしい。坂は直線で、頂点付近は幅が広く､右側（西側）が坂の途中まで直線状に斜めに狭まっている。西側の屋敷の法面も同様にテーパーが付いている。景観工学上非常に美しい遠近法の景観となっている。このような坂はイタリアの塔の街並で有名なサンジミニャーノを連想させるが、美的理由で造ったものではなく、別の目的があったのであろう。敵が坂下から侵入した時には坂上から川原石を転がして、坂が狭まることで撃退力が高まる効果を狙って設計された砦の機能を持つ構造だとも考えられる。城研究の専門家の見解を確認したい。

現地で記録した写真・動画・音など

３　岩鼻の坂

机上調査の仮番号　１７
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　岩鼻の坂（いわはなのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向
総延長　100m
最大斜度　10 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416640,131.618255　8.1m
坂頂点の経緯度と標高　33.417410,131.618684　24.0m
坂の形態
　下部は石段、上部は車道、アスファルト舗装、L 字クランク　下部の階段は大正 5 年の天理教教会の開設後に造られたもの。
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 6 番
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　岩鼻の井戸（市史跡）、岩鼻の坂（市史跡）、戎社
現地で記録した写真・動画・音など

4　紺屋町の坂

机上調査の仮番号　１９
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　紺屋町の坂（こんやまちのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
　神明社、黒住教教院
坂の方向　北
総延長　140m
最大斜度　7 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416877,131.617429 8.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.418153,131.617761　21.6m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 8 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest

現地で記録した写真・動画・音など

５　ひとつ屋の坂

机上調査の仮番号　２２
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　ひとつ屋の坂（ひとつやのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　北
総延長　120m
最大斜度　10 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417150,131.616688 9.1m
坂頂点の経緯度と標高　33.418274,131.617053 22.0m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 9 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　佐野家
現地で記録した写真・動画・音など

６　久保の坂（東側と西側）

机上調査の仮番号　２５、２６
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　久保の坂（くぼのさか）
坂別名（よみ）　東側は下久保の坂、西側は上久保の坂とも呼ぶ
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　東側は北向き、西側は東向き
総延長　120 m
最大斜度　18 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　東側　33.417808,131.615776 14.6m　西側　33.418184,131.614730 17.1m
坂頂点の経緯度と標高　33.418144,131.615229 22.3m
坂の形態
　東側から、車道、北に折れて上り階段、歩道、西に下り階段となって富坂の中間点に出る
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 11 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

７　富坂

机上調査の仮番号　３０
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　富坂（とみさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　北西
総延長　120m
最大斜度　5 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417656,131.614913　11.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.418731,131.614494　24.3m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 10 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　きつき衆楽館、坂添いの歴史的建造物と鏝絵
現地で記録した写真・動画・音など

８　煙硝蔵鶴の口坂

旧城下町の西側境界と考えられる。奥田税理士事務所付近の坂。

机上調査の仮番号　３４
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　煙硝蔵鶴の口坂（えんしょうぐらつるのくちさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　北東
総延長　220m
最大斜度　10 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417647,131.612247　14.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.418937,131.613362　30.4m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、坂基部からは緩く曲がり、坂頂部付近は矩形に折れ、札ノ辻に出る。
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 22 番による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

9 札ノ辻坂

広義の札ノ辻坂は、杵築小学校から札ノ辻付近まで、北台尾根筋の旧城下町のメインストリートとなっている緩い坂。狭義の札ノ辻坂は、札ノ辻付近のみ。

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者
坂名（よみ）　札ノ辻坂（ふだのつじさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　西
総延長　270m（狭義の札ノ辻坂）　800m（広義の札ノ辻坂）
最大斜度　4 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.418757,131.614489　24.3m（狭義の札ノ辻坂）　33.417714,131.620046　19.4m（広義の札ノ辻坂）
坂頂点の経緯度と標高　33.419317,131.611683　35.0m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 1 番による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　札ノ辻跡、八坂社石造旧本殿（県有形文化財）
現地で記録した写真・動画・音など

10　仮称　祇園の坂

地裁の西側にある坂。射場の坂同様、城外にある坂だが、交通上重要なので記録しておく。

机上調査の仮番号
調査検討後の正式番号　３６
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称　祇園の坂（ぎおんのさか）、東泉寺の坂（とうせんじのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　東
総延長　180m
最大斜度　4 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419859,131.608862　27.0m
坂頂点の経緯度と標高　33.419501,131.610739　34.4m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、ほぼ直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料１０）の 15 番による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

１１　射場の坂

旧城下町外だが、外部から旧城下町へと出入りする重要な街路の坂

机上調査の仮番号　３５
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　射場の坂（いばのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南東
総延長　180m
最大斜度　9 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.420848,131.611142 16.0m
坂頂点の経緯度と標高　33.419711,131.612611 33.3m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、ほぼ直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料１０）の 14 番による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

１２　仮称　宮地嶽神社の坂

古野地区から西に登り、札ノ辻に出る坂。旧城下町の西側境界と考えられる。

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称　宮地嶽神社の坂（みやじだけじんじゃのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　西
総延長　70m
最大斜度　8 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419559,131.615310　26.0m
坂頂点の経緯度と標高　33.419519,131.614655　30.9m　（坂の頂点付近で北に分岐する。分岐終点の標高は 36.9m。杵築の坂の中で最高地点。）
坂の形態
　歩道、一部車道　アスファルトとコンクリート舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　宮地嶽神社の祠。尾根筋の坂なので爽やかな景観。
現地で記録した写真・動画・音など

13　仮称　古野南坂

古野地区南側の坂。清水寺の坂へ続く道から分岐して下る東西の坂（南側）

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。　仮称　古野南坂（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　西
総延長　80m
最大斜度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419384,131.616232　18.1m
坂頂点の経緯度と標高　33.419550,131.615326　26.0m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

14　仮称　古野東坂

古野地区の東端にある南北の坂

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　　2015 年 12 月 17 日
調査者　瀧山
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。仮称　古野東坂（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　110m
最大斜度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419299,131.616211　17.4m
坂頂点の経緯度と標高　33.418511,131.615868　23.3m
坂の形態　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

15 仮称　古野中坂

古野地区内を南北に通る坂。仮称古野東坂の西側の通り。

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　　2015 年 12 月 17 日
調査者　瀧山
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。仮称　古野北坂（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　90m
最大斜度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419402,131.615825　20.2m
坂頂点の経緯度と標高　33.418556,131.615626　24.8m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　この坂と清水寺坂との間にある旧近藤医院は、元料亭の豪華な造りで、藤原義江が少年期を過ごした。義江が 7 歳程の時、杵築の芸者置屋業、藤原徳三郎に認知してもらい藤原姓と日本国籍を得ることとなった。

現地で記録した写真・動画・音など

16 仮称　古野北坂

古野地区北側の坂。清水寺の坂へ続く道から分岐して下る東西の坂（北側）

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。仮称　古野北坂（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　西
総延長　50m
最大斜度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.420280,131.616050　22.2m
坂頂点の経緯度と標高　33.420374,131.615546　24.9m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

17 清水寺の坂（新坂）

机上調査の仮番号　２８
調査検討後の正式番号
調査日 2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　　清水寺の坂（せいすいじのさか）（新坂）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向
総延長　230m
最大斜度　7 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.422362,131.614248 9m
坂頂点の経緯度と標高　33.420911,131.615476 24.1m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、S 字状
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 16 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

18 清水寺の坂（旧坂）

机上調査の仮番号　２７
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　清水寺の坂（せいすいじのさか）（旧坂）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　110m
最大斜度　7 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.422102,131.615197 8.2m
坂頂点の経緯度と標高　33.421108,131.615256 21.5m
坂の形態
　歩道、コンクリート舗装、ほぼ直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 16 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

19 仮称　竹林の坂

R5 番館から北台への坂

机上調査の仮番号　２１
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　瀧山、井手、佐久間、武田、磯谷
坂名（よみ） なし
坂別名（よみ） 無名。竹林に囲まれた静かな坂なので、仮称「竹林の坂（ちくりんのさか）」と名付ける（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　160m
最大斜度　13 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.421319,131.617633 3.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.420441,131.616930 23.7m
坂の形態
　車道、コンクリート舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　静かな竹林の中にある坂。
現地で記録した写真・動画・音など

20 臥雲の坂

セブンイレブンから北台へ上る坂。旧臥温泉への坂は通行不可。

机上調査の仮番号　１６
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ） 臥雲の坂（がおんのさか）
坂別名（よみ） 東新道の坂（ひがししんみちのさか） 臥温の坂（がおんのさか） 歴史文化上、臥雲の坂のほうが正式名として好ましいと考えられる。
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　180m
最大斜度　10 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.419496,131.618502 3.5m
坂頂点の経緯度と標高　33.418131,131.618067 21.3m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、S 字状
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 17 番および臥雲の茶屋の項の記述による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

21 番所の坂

机上調査の仮番号　7
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　番所の坂（ばんしょのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　復元門、番所小屋、井戸
坂の方向　南
総延長　110m
最大斜度　11 度
最小幅 5m
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.418672,131.620486 2.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.417696,131.620084 19.2m
坂の形態
　歩道、階段、石張り
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 3 番による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　復元した門、番所小屋、井戸など。坂の雰囲気は江戸時代の雰囲気に最も近い。坂基点付近にある暗渠水路出口の遺構。
現地で記録した写真・動画・音など

22　仮称　番所車坂

北台、小学校に至る車道。

机上調査の仮番号　6
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　番所の坂の車道なので、仮称「番所車坂」と名付ける（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　観光案内所、陸橋、杵築小学校
坂の方向　南西
総延長　220m
最大斜度　4 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.418838,131.622080 2.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.417696,131.620084 19.2m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、S 字状
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　北側、北山川方向の景観が良い。観光案内所前の潮止堤防跡。杵築小学校所有豊後国図（市文化財）
現地で記録した写真・動画・音など

23　塩屋の坂

杵築を代表する３つの坂の一つ。

机上調査の仮番号１０
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　塩屋の坂（しおやのさか）
坂別名（よみ）　志保屋の坂（しおやのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　160m
最大斜度　12 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416250,131.619564　4.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.414925,131.619145　22.8m
坂の形態
　歩道、直線、石張り　上部は車道、アスファルト舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
　杉安氏調査（資料１０）の 5 番による。
Point of Interest
　北側、順光で見る酢屋の坂方面、特に旧大原邸付近の景観が素晴らしい。坂基点にある暗渠水路の遺構や、坂基点の橋の舗装の下に隠れている橋板（6 枚の縦長石）は必見。坂上の中根邸。

現地で記録した写真・動画・音など

24　仮称　のぞみ坂

塩屋の坂中間の車道が始まる部分から西に上り、飴屋の坂に下り、再び上る坂。机上調査での見落とし。

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。　北側の景観が美しいので仮称「のぞみ坂」と名付ける（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　東西
総延長　170m
最大斜度　14 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　東側　33.415968,131.619403　12.3m　西側　33.416102,131.617890　17m
坂頂点の経緯度と標高　33.416089,131.618410　19.1m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、直線　上って下る。塩屋の坂と飴屋の坂の中間が最高地点。
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　崖に沿う坂なので北側の景観が美しい。
現地で記録した写真・動画・音など

25　飴屋の坂

机上調査の仮番号　１８
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　飴屋の坂（あめやのさか）
坂別名（よみ）　雨夜の坂（あめやのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　30m
最大斜度　18 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416375,131.617890　8.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.416102,131.617890　17m
坂の形態
　階段
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　　坂途中にある民家が坂と調和して美しい
現地で記録した写真・動画・音など

26 秋津屋の坂

飴屋の坂の西側にある坂

机上調査の仮番号　20
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　秋津屋の坂（あきつやのさか）
坂別名（よみ）　秋津屋坂（あきつやざか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南東
総延長　50m
最大斜度　21 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416478,131.616989　9.3m
坂頂点の経緯度と標高　33.416192,131.617021　20.7m
坂の形態
　階段、石張り、くの字状
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
　杉安氏調査（資料 10）の 24 番による
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

27　天神坂

机上調査の仮番号　２９
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　天神坂（てんじんざか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向
総延長　160m
最大斜度　８度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417540,131.614972　11.7m
坂頂点の経緯度と標高　33.416411,131.615884　 22.2m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、緩いカーブ
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料１０）の 12 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂下の復元井戸、橋、天満社　杵城菅廟碑（三浦梅園の碑文、市有形文化財）、天神祭り（市無形民俗文化財）
現地で記録した写真・動画・音など

28　仮称　蔵本の坂

商工会館から南台への坂

机上調査の仮番号　３２
調査検討後の正式番号
調査日 2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称　蔵本の坂（くらもとのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長 120m
最大斜度　4 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417378,131.613094　14.5m
坂頂点の経緯度と標高　33.416304,131.613024　24.2m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料１０）の 20 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

29　仮称　下原の坂

小宮写真館から郵便局への坂。旧城下町の西側境界と考えられる。

机上調査の仮番号　33
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称　下原の坂（しもばるのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　南
総延長　50m
最大斜度　17 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.417325,131.612697 16.0m
坂頂点の経緯度と標高　33.416890,131.612563 23.6m
坂の形態
　歩道、下部は階段、コンクリート舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 21 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

30　仮称　貴布称の坂

貴布称神社の坂。旧城下町の西側境界と考えられる。

机上調査の仮番号　３１
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称　貴布称の坂（きふねのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　北
総延長　190m
最大斜度　12 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.413272,131.614693　4.7m
坂頂点の経緯度と標高　33.414741,131.613684　25.2m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 23 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　貴布称神社、神社からの俯瞰景観が良い。坂上の小社。
現地で記録した写真・動画・音など

31　寺町の坂

机上調査の仮番号　２４
調査検討後の正式番号
調査日　2017 念 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　寺町の坂（てらまちのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　各寺院とカトリック教会と天満宮の鳥居
坂の方向　北
総延長　250m
最大斜度　8 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.413644,131.615943 5.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.415977,131.615648 23.1m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、直線
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 13 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂上の交差点（馬場）からは寺院とカトリック教会と神社の鳥居が同時に見られる。坂基部にある門跡の礎石および旧錦江橋の欄干石。妙徳寺入口にある文字入り礎石。安住寺 梵鐘（県有形文化財）、妙経寺庭園（県名勝）、正覚寺 鉄鋳廬舎那仏坐像（市文化財）、長昌寺 当麻曼陀羅（市文化財）、長昌寺 阿弥陀三尊仏（市文化財）、長昌寺 釈迦三尊像（市文化財）、長昌寺庭園（市名勝）、

現地で記録した写真・動画・音など

32　カブト石の坂

机上調査の仮番号　２３
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者 杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　カブト石の坂（かぶといしのさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　東
総延長　130m
最大斜度　8 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.413684,131.615948 6.1m
坂頂点の経緯度と標高　33.413778,131.617026 20.0m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装。中間点で梅ケ小路の坂に分岐。頂部付近はＴ字で、左に竹ケ小路の坂に分岐、右に松ケ小路方面の坂に分岐。右角にカブト石と呼ばれるカブト型の石があった。
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　杉安氏調査（資料 10）の 18 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

33　お茶坂

南台、塩屋の坂を南へ直進し、突当りを左に入った場所から下る坂。突当り付近には南台の「台の茶屋」があった。魚町、光明院の西側の路地を入り左折して崖上に上る坂。坂下地域の避難路。

机上調査の仮番号　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　杵築市・坂学会合同調査チーム
坂名（よみ）　お茶坂
坂別名（よみ）　台の茶屋坂（だいのちゃやさか）　御茶屋の坂（おちゃやのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向
総延長　50m
最大斜度　27 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.413357,131.618984　3.9m
坂頂点の経緯度と標高　33.413416,131.618587　23.6m
坂の形態
　歩道、一部階段、コンクリート舗装
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　台の茶屋坂（だいのちゃやさか）は杉安氏調査（資料１０）の 19 番による。光明院住職の奥様によると御茶屋の坂（おちゃやのさか）と呼んでいるとのこと。現地に「茶屋の坂」という標識がある。お茶坂の看板は、光明院門前電柱の巻き看板による。杵築市設置の看板で、上から、「津波避難場所」、「方向矢印」、「お茶坂上広場」が描かれている。（写真参照）
坂に関するエピソード等
Point of Interest
現地で記録した写真・動画・音など

34　仮称　一松坂（ひとつまつさか）

南台から一松邸への坂。途中できつき城下町資料館に分岐する。

机上調査の仮番号　１５
調査検討後の正式番号
調査日　2015 年 12 月 17 日
調査者　瀧山
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　無名。一松邸への坂なので、仮称　一松坂（ひとつまつさか）と名付ける。（瀧山案）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　東
総延長　100m
最大斜度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.414925,131.619145　22.8m
坂頂点の経緯度と標高　33.414920,131.620272　32.3m
坂の形態
　車道、アスファルト舗装、S 字状
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
 一松邸、杵築城展望台、きつき城下町資料館。坂上展望台からの眺望が非常に良い。
現地で記録した写真・動画・音など

35　城山坂

杵築城、大手門の坂（石段坂と車坂）

机上調査の仮番号　4
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　瀧山、井手、佐久間、武田、磯谷
坂名（よみ）　城山坂（しろやまさか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　青筵神社、杵築城
坂の方向　東
総延長　石段坂 25m　車坂 50m
最大斜度　石段坂 28 度　車坂 11 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高 33.415771,131.624204　8.1m
坂頂点の経緯度と標高 石段坂 33.415587,131.624386　17.1m 車坂 33.415386,131.624714　16.9m
坂の形態
　石段坂は下 26 段、上 22 段
　車坂はアスファルト舗装、湾曲
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　坂名（仮称）は杉安氏調査（資料 10）の 25 番による
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　階段踊り場からの俯瞰風景が美しい。鳥居、堀、城山の桜、紅葉、天守閣と眺望、展示資料など、見どころが多く、野鳥の声もにぎやか。堀は整備すれば美しくなる。杵築城跡･藩主御殿跡（県史跡）、三十三体観音曼陀羅（市文化財、城内）、城山公園石造物群（市文化財）、杵築神社所有金の唐人笠馬印（市文化財）、
現地で記録した写真・動画・音など

36　仮称 城鼻の坂

杵築城、南側の船溜りからの坂

机上調査の仮番号　3
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　瀧山、井手、武田、佐久間、磯谷
坂名（よみ）
坂別名（よみ）　仮称 城鼻の坂（しろはなのさか）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク
坂の方向　北
総延長　100m
最大斜度　15 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.415153,131.625733 2.2m
坂頂点の経緯度と標高　33.415972,131.626146 16m
坂の形態
　車道、コンクリート舗装、右に湾曲
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　坂名（仮称）は、杉安氏の調査（資料１０）の、27 番の記述による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂頂点付近から見る南側の街並と八坂川、その向こうに広がる遠景が美しい。
現地で記録した写真・動画・音など

37　城山観音坂

杵築城、北側の杵築中学グランドからの坂の東側に位置する坂。
机上スキャンで見落とした坂。現地調査で採番。

机上調査の仮番号　　なし
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　瀧山、井手、武田、佐久間、磯谷
坂名（よみ）　城山観音坂（しろやまかんのんざか）
坂別名（よみ）
所在地
地図へのリンク
付近のランドマーク　復元（想定）天守閣
坂の方向　南西
総延長　80m
最大斜度　20 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高　33.416362,131.627305 3.7m
坂頂点の経緯度と標高　33.415946,131.626908 20.3m
坂の形態
　歩道、階段（110 段）、コンクリート舗装、二度矩形に曲がる
坂の標識及び説明書きの有無及び表記
坂名、別名、坂の成立時期の出典
　坂名 (仮称）は、杉安氏の調査（資料１０）の、28 番の記述による。
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　坂下に門がある。城跡北斜面の常緑樹林は、温暖な海洋性気候がもたらすもので、植生として貴重であり、野鳥の声もさわやか。
現地で記録した写真・動画・音など

38　仮称　多聞坂

杵築城、北側の杵築中学グランドからの坂

机上調査の仮番号　2
調査検討後の正式番号
調査日　2017 年 12 月 2 日
調査者　瀧山、井手、佐久間、武田、磯谷
坂名（よみ）
坂別名（よみ）
坂名は無い。杵築城内外古図 (資料 4）によると杵築中学グランド付近は御武具方となっているので、仮称 「多聞坂」（たもんさか）あるいは「もののふ坂」と名付ける。（瀧山案）
所在地
地図リンク
付近のランドマーク
坂の方向 南西
総延長　60m
最大斜度　22 度
最小幅
最大幅
坂基点の経緯度と標高 33.416281,131.627010 4.5m
坂頂点の経緯度と標高 33.416053,131.626554 19.8m
坂の形態
　歩道　ほぼ直線、コンクリート舗装
坂の標識及び説明書き
坂名、別名、坂の成立時期の出典
坂に関するエピソード等
Point of Interest
　城跡北斜面の常緑樹林は、温暖な海洋性気候がもたらすもので、植生として貴重であり、野鳥の声もさわやか。
記録した写真 / 動画 / 音の数と場所

杵築の坂道

1　札の辻坂（杵築城下町の基幹道路）

杵築城下町の玄関口といわれた馬場尾口番所（延享三年＝一七四六＝までは松尾口といわれた）は札ノ辻坂の最も西の南側に北向きに建っていた。現在の渡辺氏の屋敷内にあり、雪笹紋の瓦等が遺っている。「天保十一年九月金子忠告再修之」と書かれた絵図には枡形虎口を設けた番所が描かれている。（通路を折り曲げて造る）

この坂道を下って北台まで通じる道が杵築城下町の基幹道路であった。

この基幹道路から枝分かれし、北台・南台両台の谷を流れる谷川に沿って、下町・谷町・仲町・新町と西に伸びていった町に、その枝道が通じていた。すなわち北台から「酢屋の坂」が谷町に、北台西から「岩鼻の坂」が谷町・仲町境に、上町から「紺屋の坂」が仲町に、西町から「ひとつ屋の坂」が仲町・新町境に通じ、さらに札ノ辻坂下から「富坂」が新町・弓町境に通じて北の台地と谷間の町をつないでいる。北台地の北は古野の清水寺口に到り、南の台地へは「塩屋の坂」・「飴屋の坂」・「天神坂」がつなぎ、南の台地と西の山麓の寺院や南崖下の町家は「寺町坂」及び下町からの魚町道がつないでいる。これらの道や坂が人の営みと物の動きを抱きかかえるように杵築の城下町は造られている。

この基幹道路は古く、天正十四年（一五八六）十二月、新納忠元を将とする薩摩軍が木付城を攻めた時、西町の常光寺（現存）を陣屋にしたという記録もあり、近世が始まる以前にこの道はできていた。常光寺の開山は古く不明だが、天正二年（一五七四）、天台宗から真宗に帰依したという。（杵築市誌　杵築市教育委員会・昭和四三年七月発行　以下杵築市誌）

この「札の辻坂」には「坂」の呼称がないが、大事な坂として認識したい。

慶長元年（一五九六）、木付に入封した杉原伯耆守長房は「伯耆松」の名を遺すほど街道に松並木を造り、城下町玄関である馬場尾口を清厳な趣をもたせるため番所口から南祇園の法西寺（廃寺）・東泉寺辺り、北祇園にも松を植えた、との記録があり、黎明期城下町の静謐さを物語っている。（杵築市誌）

他国の人は陸からはこの番所口からしか城下に入れなかったので、客人は先ず最初の坂道を下ることになる。坂の開削は木付氏時代に行われたか。定かな記録がない。

「札ノ辻」の名は寛延二年（一七四九）七月、藩札が発行され、番所の東に銀札場ができた。それに因んで名付けされたというが、右述べてきたように坂道は名付けよりはるかに古い。坂の西、正面に八坂社が祀られている。天保十三年（一八四二）に木田村の清成清助が京都より勧請したという。大正十五年に乃木神社も祀られた。

札ノ辻坂の北側は足軽屋敷であったが、町が西に伸びたので安永九年（一七八〇）及び天明四年（一七八四）に町人に払い下げた。藩は古野地区を下級武士居住区として開発していたので足軽衆を移住させた。

2　勘定場の坂（北台）

本格的な町造りの最初に手掛けた坂と思われる。登り口右手の石垣角石は慶長期の石（幅広の矢穴跡あり）が算木積みされ、威厳を示す。慶長五年（一六〇〇）三月、細川氏の家老として入った松井氏が、同年九月の木付城攻防・石垣原合戦を勝抜き、慶長六年、木付城を預かった後の間もない頃、築造が始められたと思われる。正徳元年（一七一一）十二月に焼失した勘定場が坂の東南に設けられていたので「勘定場の坂」と命名された。

石段登り口の縁石に盃状穴が見られ、石を擦りながらの念じごとがなされた痕を遺している。寺社の石造物にはよく見かけるが、ここで何を念じたか？

家老級の屋敷、及び天明五年（一七八五）七代藩主松平親賢によって創立された学習館の藥医門が遺っている。

坂は勾配二四度、石段五三段、長さ最初の石段六八・七m、続いて平道二六・三m、そして又石段八段九・二m、（蹴上・踏面、左に同じ）合せて一〇四・二m余、内幅四・二m余、蹴上一〇cm余、踏面一・二五m余、蹴上が低く、踏面が広いのは駕籠や乗馬での通行に程よく造られている。（坂の勾配等については『杵築城下案内（昭和五八年編）』（以下「城下町案内」）より引用。

3　番所の坂（北台）

城下町警固のために六か所の口番所が設けられていた。北浜口番所は御殿の裏門に通じ、宝永三年（一七〇六）三月、杵築松平初代英親の葬儀の際は、この番所の坂、酢屋の坂、塩屋の坂を通り、南台本丁を経て菩提寺養徳寺に入られた。

この坂下に船着場があり、大内の辰が鼻等を行来した。

「杵築市誌」によると

「一、北浜番所外坂並坂下廻り角石橋、御番所前切石仕候。尤も土留羽口迄。

一、小沢孫四郎様脇坂（番所の坂）仕替え仕り候。

嘉永二年（一八四九）、　右荒蒼啓助　」

この坂を下って右手に谷町谷川から北浜新田への給水隧道の出口がある。（詳しくは塩屋の坂で）

この坂の築造年代は諸所修復され、新しいものも見られるが、当初の築造は城下町造り初期のもので江戸初期と思われるという。（高瀬哲郎氏・元名護屋城博物館学芸課長）

4　酢屋の坂（北台）

北台家老丁と町家谷町を経て南台家老丁を結ぶ坂である。坂の下東角の綾部味噌店は昔、宿老等を勤めた家で谷塩（谷町）・中塩（仲町）・上塩（上町）と三店をもつ豪商であった。天明六年（一七八六）には酢の永代株も請けたので「酢屋の坂」と呼ばれた。勘定場の坂と同様町造りの初期の段階（慶長期から寛永期）に築造された坂であろうといわれる。（高瀬哲郎氏）

「酢屋の坂」命名以前に造られていた坂と思われるが、当時の呼称は記録にない。坂のあったことは次の記録で明らかである。（藩記録「町役所日記」を大田利男氏が翻刻『町人の生活』と命名して昭和五一年出版）

「宝永三年（一七〇六）三月十一日、御隠居様（初代英親公）御葬礼、両坂（酢屋の坂・塩屋の坂）に丸提灯四拾張を燈し、町宿老、組頭、竹屋庄七は谷町の広小路で拝み申すよう仰せ付けられ、上下着用、銘々箱提灯を持参して連拝相勤め、右の外拝礼遠慮の事」

以後、藩公近親者の葬礼には、この坂を通ることが多かったが略す。

この坂は登り口の幅が三・三m、中央部から上は扇形に広がり、中央部四・m、最上部は八m（縁石を含む）、総長八九・一m、七〇段、蹴上三～五cm、踏面は下部一・三五m余、中部一・八五m余、上部一・二五m余で均一ではない。意味は不明。（計測は杉安）

勘定場の坂同様、蹴上が低く、踏面が広いのは駕籠・乗馬での登降を配慮したものだろう。

大正八年（一九一九）、吉見源治氏（酒造業）によって修復された、との一紙を得たが出所不明。記事には「先年小学校前の敷拾間に亘る坂路も児童の昇降に同情を表し幅敉間のセメント及び石敷を以て寄附」とある。

坂の上部幅は北台広小路と同幅であり、登り口が狭いのは、下から攻め上がる敵兵を、敵より多人数で防ぐために上部を広くして防衛力を強めたといわれている。

5　塩屋の坂（志保屋とも）（南台）

この坂も勘定場の坂、酢屋の坂同様に城下町形成の早い段階で築造されたものと思われる。

応永元年（一三九四）木付氏が城山台地に城を移した頃は南台と北台は海で遮られ、

「潮の満ちたる時は舟楫の便により、潮の干たる時は南台と北台との間を往来せりといふ。」と『豊城世譜』（是永六雅著・天保五年発刊）に記されている。

それから二〇〇年後、この地は地盤の上昇運動によって一・五m余隆起しているので海水は退き陸地で北台と南台は繋がり、坂を造って通路ができた。それが慶長後期から正保の頃（一六一〇～一六四七）ではないだろうか。

塩屋の坂の名付は豪商塩屋に因んで付けられた、と思われる。坂の造りは勘定場の坂、酢屋の坂同様に段

づくりであったが、一時期車両通行のため古い坂道が壊された。現在旧に復すため石段造りの坂にしたが、旧に復する事は望むべくもない。

この坂下西側に谷川より北浜新田に給水する隧道が北台台地を潜っている。その長さ二九〇m、宝永七年（一七一〇）末通水した。谷町豪商油屋孫左衛門の施工である。

この坂は藩主及び近親者の菩提寺参詣、又はそれら近親者の葬送の途として通行された。菩提寺参詣は大手の門を出て下町・谷町広小路を曲がってこの坂を登り南台本丁通り寺町へ、葬送は裏門を出て番所の坂を登り、酢屋の坂を下り、この坂に到ったようである。

これらの事が「町人の生活」に記されている。「三記してみる。

○宝永三年（一七〇六）三月、英親公の葬送は「酢屋の坂」でふれた。

○寛政二年（一七九〇）三月、慈光院様（五代親盈実母）御出棺、御通棺の節、御目通りに罷り出る面々は麻上下着用、塩屋坂四つ角で御参りするよう仰せ付けられる。

○天保八年（一八三七）四月、御太刀様（九代親良公長女）御葬式、御裏門より塩屋坂、本丁通り養徳寺へ御入棺に付、道筋御掃除申付けられる。

○嘉永六年（一八五三）五月二十九日未の上刻（午後二時）郁之助様（九代親良三男）裏御門より御出棺、北浜口、酢屋の坂、塩屋の坂、本丁通り養徳寺へ御入棺、御通り筋、持場夫々掃除の事。

坂の普請については

天保七年（一八三六）四月、天満屋源太郎、谷町南坂（塩屋の坂）普請致し、奇特に思召しられ、御懸物下さる。

嘉永元年（一八四八）七月、塩屋の坂三カ所、荒巻恕助、役所に願出て施行す。

6　岩鼻の坂（北台）

北台西の河合氏（一五〇石）、特に教育者として知られる河合清一郎（一八六一～一九三三）や、その弟河合操（陸軍大将）らが育った地域から南台に通じる北台側坂をいう。谷町北側西詰に切立った崖があり、その岩鼻を曲がって下り、谷町と仲町の境（広小路があった）を横切って飴屋の坂にかかる。

崖下には崖を堀込んで戎社が祀られているが創祀の記録はない。次の記事は『町人の生活』より引用。

○享保十一年（一七二六）四月、藤屋吉左衛門の願いによって戎社の横に井戸が掘られた。垣を丈夫にして綻を掛けるよう仰せ付られた。町筋唯一の井戸で、町行くんの喉を潤した。

○岩鼻の北側の坂道普請　弘化二年（一八四五）二月、福良屋定吉、日野屋善兵衛、大黒屋弥助、上記の三人

より寄進を以て修復致したき段願出施行する。
○嘉永二年（一八四九）十一月、岩鼻坂浅井平吉様（経歴等不詳）角まで仕替え並に塀下石垣仕る。佐和屋荒巻啓助の施工とあり。
大正五年（一九一九）七月、天理教分教会が坂下の西側に創立された。（市誌）。その際に坂下より石段が築かれた。坂は斜めに谷町・仲町境の途につながっていたが、現在は石段につながり道路に至る。

7　飴屋（あめや）（雨夜）の坂（南台）

仲町広小路から南台裏丁の武家屋敷に通じ、また仲の丁を経て本丁に通じている。もとは「雨夜の坂」と呼ばれた。その由は雨が降る暗い夜でも白つぽい石畳のため、坂道がよく見えたことによる（杵築城下案内）といわれるが白い石畳は現在見ることはできない。何時の頃からか「飴屋の坂」と呼ばれるようになつた。近くに飴屋があったか？、近年まで菓子屋はあったが、定かではない。
石段造りで、「くの字」に曲がり、東側には門塀を設えた武家屋敷もあり、城下町の情趣が味わえる。
延享三年（一七四六）四月、富永靱負を正使とした諸国巡見使が来杵した。（副使二名、総勢一〇〇人余）その際の「御巡見控帳」（『士居文庫文書』市立図書館蔵）に
「一、御荷物付来馬人足之儀、佐伯屋方ハ仲町南之坂を登り天神坂を下り蔵本へ参る」とあり、飴屋坂を登って天神坂を下り、弓町の蔵本に行っている。副使二名の内一名は新町楠屋から新町を通り蔵本へ、もう一人の副使は伊予屋より「堀抜坂」（塩屋坂）より、とある。
「町人の生活」に普請の事が次のように記されている。
○天保二年（一八三一）二月、石段造り、その人夫は上より下さる旨仰せられた。その段須磨屋所助へ申付。
○天保十年（一八三九）二月、飴屋坂岡野屋忠助屋敷溝ふち大破に付、修復する。
築造年代は調べきれていないが、町が西に伸びていった経過から考えて酢屋の坂、塩屋の坂より、やや遅れて築造されたものと思われる。計測はしていない。

8　紺屋町（こんやまち）の坂（紺屋町）

北台の西、西町と谷川沿いの仲町をつなぐ坂で、仲町広小路に下り、そこから南台飴屋の坂を通って南台武家屋敷に通じる坂である。段造りの記録も事跡もなく土砂坂であった。
坂下の両側に杵築随一の豪商佐伯屋が広い間口を誇っていた。巡見使等貴重な客人は勿論、文化七年（一八一〇）幕府測量方伊能忠敬もこの佐伯屋に宿泊した。
町には紺屋が集まっていたというが、宝永六年（一七〇九）八月に藩に願書を出した紺屋仁兵衛、七右衛門、孫六、久兵衛の四人も紺屋町に居住していたのか、絵図

や住所録で確かめることはできていない。願書は、「紺屋頭の太兵衛と権左衛門が藩の染物を仕上げ（占める意か）、私共に割付してくれない、以前のように割付してもらいたい」というもの、結果は翌年廻しになった。
宝永六年（一七〇九）三月の城下町には十六組があり、紺屋町は一組で、紺屋権左衛門組だが、隣の西町にも紺屋藤右衛門組があった。（「町人の生活」より）。
紺屋組の構成人数等は判らない。
紺屋坂には文化二年（一八〇五）、神明社が勧請され、紺屋町・上町の町民が氏子として祭祀している。（市誌）
また、安政三年（一八五六）三月、九代藩主松平親良が尊崇した黒住教の教院が設置された。（市誌）
坂は馬場尾口から北台に通じる道に丁字形につながり、そこに広小路がつくられていた。

9　一つ屋（ひとつや）の坂（仲町）

坂の上り口は新町と仲町の境にあり、ここに城下町特有の「鍵の手」とか「食い違い」ともいわれるクランク状に屈曲し、敵の進軍をためめた道路造りがあったが、昭和五六年（一九八一）の道路拡幅によって姿を消した。
文化十二年（一八一五）頃の町家絵図によると上り口の西側に楠屋があり、その前を東に進むと「塩の屋」に突き当たる。右に鍵の手に曲り、次に左に曲がって仲町道となる。（枡形虎口の道とも）
この坂一帯は享保十四年（一七二九）五月の大火で焼失した。その後の絵図では坂の東側には大家（分限者）の屋敷が書き込まれ、坂の中程には「用水」がある。先の火事の後に設けられた。坂の西側にも大家である楠屋、若屋の広い屋敷があるが、中ほど「久保の坂」入り口の上下は武家屋敷になっている。古老の話によると、この屋敷には十市王洋（杵築藩士・画家）が住んだこともあるという。（王洋は若くして隠居、その後であろう）
現在下から明治二二年（一八八九）十一月、伝導が始まったキリスト教会が、大正十二年（一九二三）七月、杵築教会堂が落成した。白百合幼稚園は昭和二四年（一九四九）開園した。その上に車庫などがあり、「ひとつ屋坂」と「紺屋町坂」をつなぐ小道があり、杵築市立図書館の前身である「梅園文庫」が明治四五年（一九一二）三月、閲覧所を置いた。その建物は医師佐野家の隠居所であった。現在も個人所有で遺っている。
坂は北台台地の基幹道路に丁字形でつながる。丁字の東側に寛永年間（一六二四～一六四四）小笠原忠知に招かれ西町に屋敷を与えられた名医佐野家の屋敷がある。

10　冨坂（とみさか）（富坂）

杵築の町は東から西に広がった。北台・南台の台地の間を流れる谷川両岸の僅かな地に生じた町であるから

下町・谷町・仲町・新町と西に一方的に伸びるしかない。
谷川筋の新町は北台台地の西新町とつながるべく願出て建設されたのが「冨坂」といわれる。（城下町案内）
宝永六年（一七〇九）の造成といわれる。宝永七年（一七一〇）二月、新町口（富坂下部）の元鷹屋敷を町方に売ることになり、入札をしている。（「町人の生活」）
正徳元年（一七一一）十二月、下町の大火で焼け出された人たちは新町（富坂下部）に移され、その後は大手広場になった。（市誌）藩の移住政策が進められた。
享保二年（一七一七）には二十軒の町家が軒を並べたともいう。（城下町案内）
文政五年（一八二二）二月、豊後竹田の画聖田能村竹田が来杵し、冨坂佐和屋主人荒巻啓助を訪うも不在、よって北隣の冬木屋森本家に寓す。その後諸氏と交遊する。この時、高橋元吉（草坪）は弟子となり竹田に従い、のち京・大坂に出て画業に研鑽する。田能村竹田の高弟と称されるが天保六年（一八三五）、三二才の若さで病没した。（杵築郷土史）＝杵築町教育会発行）
坂を上り始めて直ぐ、右側にあった草平の実家真木屋の前に「高橋草平誕生之碑」が建っている。
坂の命名については不明。一説に文武の人で郡奉行など勤めた綾部冨坂（名妥胤）の努力で坂ができた。その名にに因んで命名とあるが、とすると坂開設が一七〇九年、冨坂が父の後を嗣いだのが一七四五年、藩事に奔走したのが一七七〇年以後であるから、四～五十年余り後の命名となり、如何かと思われる。

11　久保（くぼ）の坂（仲町・冨坂）

ひとつ屋の坂と冨坂、並びに西町（現西新町）をつなぐ。ひとつ屋坂の半ば上辺りから西に向かって新町町家（佐和屋・若屋・楠屋等）の裏、崖上を二m余りの道が伸びる。この東西に延びる道は、その半ば辺りでクランク状になり北に三〇m弱の石段を上る。石段の下までを「下久保」といい、上って左（西）に曲がり冨坂に到るまでを「上久保」という。また、上久保の半ば辺りで北側にある西町の、札ノ辻からの幹線道路にもつながる。
「下久保」も「上久保」も武家屋敷で天明頃（一七八一～一七八八）の絵図には下久保に田坂・本田・寺崎・豊田・加藤の各氏の名が見え、上久保には宮脇・山本・溝部・木元・前田・中野の名が見られる。中野次郎兵衛が明和二年（一七六五）八月、町奉行を仰せ付られ、中級クラスの屋敷地であったようである。
下久保の「豊田氏」は昭和の戦時、連合艦隊司令長官を勤めた豊田副武大将の育った家である。

12　天神坂（てんじん）（馬場丁）

天神社は元玄昌寺の境内であった。玄昌寺はもと等岳寺といい、正保二年（一六四五）杵築松平初代英親に従い摂州三田より来たが、寛文四年（一六六四）真宗法度の難を受け門徒や寺領は没収され三田に帰ったが、弟子玄昌は止み難く木付藩立川氏の援助を受け玄昌寺として復活させた。しかし寺地は縮小された。
宝永八年（一六八〇）据場に祀られてあった天満社を現在地に奉遷した。天満社は松平英親も崇拝し、藩も祭礼に力をいれ、現在杵築最大の祭典が行われている。
新町西詰の道を挟んで北に冨坂、南に天神坂がある。古くは新町と天神坂の間は谷川で土橋が掛かっていたといわれる。（古老の話）
天神坂登り口の西側は徒士級の居住地があった。「町人の生活」よると、宝永七年（一七〇七）二月、新町口開発で元御鷹部屋の辺りを町屋敷に売却するとの御触れが出ている。（冨坂の項でも触れる）
坂の西脇に積み上げられた石垣は見事なものであるが、修復がなされ、下部が概ね江戸後期（幕末か）、上部は明治期の修復かといわれる。（高瀬哲郎氏の解説）
記録には文久元年（一八六一）三月、秋田屋金助、天神坂修復、残石を甲石（かぶといし・南台）の坂修理に使う。（市誌）

13　寺町（てらまち）の坂（南台）

北は天神坂に通じ、南は下町から南台崖下を通る魚町・据場・錦町・杉山を経て寺町に通じるが、外部から

は南に八坂川があり、古くは徒渉であるが、「古渡り」の呼名もあり舟渡りは古くから行われていた。記録的には、元禄十四年（一七〇一）の「近松寺渡し制札建つ」からである。（追遠拾遺「天保四年・是永六雅編」）
寺町坂は城下西辺の防御を固めるため、城下防衛構造の一環として寺院が配置された。寛永九年（一六三二）入封した小笠原忠知に随って入った常顕寺が現養徳寺の寺地あったが、正保二年（一六四五）小笠原氏の転封と共に三州吉田に去った。
松平氏の菩提寺養徳寺が常顕寺の跡地に正保二年、松平英親によって開基された。その後、英親公の城下町構想の一環として一六四五年～一七三三年に現在の寺院が移転建立された。
城下六か所の番所の一つ、寺町口番所が一番下の長昌寺境内東南角に設けられた。残念ながら設置年代は不明。
この坂の登り詰めに広小路があり左に「桜の馬場」（馬場丁・のち藩士屋敷）東に南台裏丁、北に天神坂に通じる。

14　射場（いば）の坂（北祇園）

北祇園の丘陵に向って矢を射ったか、矢場ともいわれる練習場があったので「射場の坂」という。城下町から外れるが、豊前往還は馬場尾口番所から射場の坂を通って守末・馬場尾・石生谷を経て溝井に至り、ここで山

香・立石を経て豊前に向かう道と波多方峠を越え豊後高田を経て豊前に通じる道と分かれる。

この坂のある北祇園にも「伯耆松」の並木があり、明治の終わり頃まで幾本か残っていたという。（市誌）

15　祇園の坂（仮名・南祇園）

城下町を出て府内・日出への往還は馬場尾口番所から南祇園の法西寺・東泉寺脇の坂を下り、十王・中平・八坂本庄・長瀬の飛び石を渡り、相原山を越え日出領辻の堂を経て日出の城下に到る。札ノ辻坂でも記したように、小笠原忠知が植えた「伯耆松」が法西寺（廃寺）・東泉寺辺りまで植えられていた。

16　清水寺の坂（古野）

清水寺は延宝年間（一六七三～一六八〇）に梅天無明師（俗名須田宅之・すだいえのぶ）の開基の寺である。宅之は杵築松平初代英親の家老を勤めたが、島原の乱以後、人の世の無常を感じて仏門に入り修行、のち木付に帰って清水寺を興したが、現在は廃寺。近くは城下町に住む者の若宮八幡への参詣道路であるが、古くは「清水寺口番所」を下って宮司・高山川の飛び石を渡って五田で二分し、国東方面へ海岸線で行く篠原往還と両子を超えて竹田津に到る黒岩往還があった。

古い坂道は現在の道路の南下にあり、急勾配の坂道であるが、歩道として利用されているらしい。

その坂道から清水寺へ登る参道が遺っている。

修復の記録では嘉永二年（一八四九）十一月「どんどん石より二十三間程両口仕り候」また、「清水寺御門下敷石御番所脇塀新規築立、出部屋下西側羽口仕替、東側羽口新規仕り候」（市誌）とある。

17　臥温の坂（「臥雲・がおん」ともいう・北台）

上町（現西上町）佐野家の向いに、北へ下る坂があり、その入口の右に「臥温泉」と彫られた石柱が達ている。左の石柱は左脇に倒れている。それには「浴場道」と彫られている。昭和四年（一九二九）八月に建てられた。『杵築史談』（昭和三十四年発行）に掲載の「臥雲亭考」（原山道生著）によると、

「この石柱はかって吉見氏一族が同浴場を改築の際、中古旧道に石畳と共に設けたもので、其の後今の「東新道」を開鑿してからは自然通行者も減り、この道標に関意の人も稀であろう。」と記されている。

この坂道は「臥雲の茶屋」への通路ともいわれたが、確かなことは判らない。「臥雲の茶屋」については後に記したい。

ここにいう「東新道」の坂は石柱の建つ坂の東、北台と上町（現西上町）の境にあった広小路から北に下る坂道で、臥温泉浴場のある集落に行く。「臥温の坂」と呼ばれている。

◎臥雲の茶屋

「臥雲の茶屋」は松平氏三代重休が建てたといわれる。

『町人の生活』宝永三年（一七〇六）七月の記に

「殿様（重休公・しげやす）の御所望で、今夜町中の踊り組残らずを寄せ、臥雲亭で夜四ツ（午後十時）過迄御上覧に供して、御酒と赤飯を頂戴した。」とあり、領民を慈しんだ重休であった。

『杵築史考』（大正三年・前田光利編）では

「臥雲の茶屋は松平重休年歯（年齢）已に壮に及ぶ、（中略）心身鍛錬の地として茅屋を造り農間商隙の餘、生を衛り心を養ひし所という、蓋し修養静臥の意によりて後人これを臥雲と名付け、後、若諶（めいえん・お茶でくつろぐ）に用いしことありしにより「臥雲の茶屋」といえり（後略）」

なお佐野雋達（杵築藩医・一八四一～一九一三）の「洞達亭遺構」では

「臥雲山は北台の傍に在り、樹木蔚然とし、旧藩松平氏の臥雲茶亭有りき。因て以て山に名つく。山下の田間に泉有り。霽沸（ひつふつ）微温硫気を含む、以て病を療すべし。邑人就て浴室を設け、以て客を待つ（中略）泉は臥雲亭の下より流る（後略）」

こうして見ると、臥雲の茶屋の下に泉が沸き浴場があり、浴場道が下っているが、茶屋の場所が定かでないので坂道も決め難い。今後の宿題。

18　カブト石の坂（南台）

寺町口番所を入って直ぐ南台に上がる坂が「カブト石の坂」である。坂上に大きな兜の形をした石があったことから呼ばれた。

この坂を上って左に南台武家屋敷の「梅ケ小路」に岐れ、坂上で丁字形に左に「竹ケ小路」、右に武家屋敷の南側を囲む道（名不明）に岐れる。この坂上の分かれ道南側にカブト石が置かれていたというが、現在は他所に移されて見ることはできない。

19　台の茶屋坂（南台）

南台の南端、巌頭に殿様の御茶屋があった。寛文五年（一六六五）、三川新田干拓工事のため、安住寺の古鐘をつるし、作業の合図に使ったという。英親公も度々出向き作業の進み具合を視察し、その完工を喜び、仮屋を建てて休息の場とした。「台の茶屋」はこれから出た呼び名で、此処に赴く際、谷町塩屋の坂などもあったが、特に据場に下りて帰城するため、南の崖下の道（下町から崖下を廻る道）まで屈折した小道を造った。これが「台の茶屋坂」である。長い間放置されていたが、現在は据場の人達の避難道になって甦った。

20　蔵本の坂（仮名・弓町）

寺町を上り左に進んで馬場丁を下り現商工会館の横で弓町に出る。現在の弓町新道である。古老の祖母の話として、小さな坂道がもう少し西にあり、門があって農民・町民が米などを扱い出入していたという。この道が城下と八坂郷の境をなす道かも知れないし、少し西にある「下原の坂」であったかも知れない。この道の東側には蔵本があり、蔵本の中に揚り家（未決囚の収容）もあった。また、八坂手永（農村組織）の庄屋などの詰場でもあった。

東蔵・中蔵・西蔵・揚り屋・年番所・侍長屋などがあった。（市誌）及び「中野家庄屋文書」＝平成二三年翻刻・杉安）商工会館以前は杵築警察署が置かれていた。

21　下原の坂（仮名・下原）

城下絵図にはない。蔵本の坂の少し西に、登り口は石段が築かれた一・五m余の坂道が、途中で右（西）に屈曲して杵築郵便局横に出るが、元々は登り口から真直ぐな道であったが郵便局設置の際、敷地確保で曲げられた。

ことによると、城下町西の境道になっていたのではないかとも思われる。今後の宿題個所である。

22　煙硝倉鶴の口坂（煙硝倉）

城下谷筋の北側、南の「蔵本の坂」もしくは「下原の坂」と結びあって城下西の境目になる坂道である。地元の方にきくと「鶴の口」といったと聞き、標記の坂道名とした。

曲りくねって城下の境をなし、札ノ辻の馬場尾口番所に通じる。藩の煙硝倉があったので、そう呼ぶが、倉の確たる場所は知らない。道には法政大学創立者の一人、伊藤修の生家がある。伊藤は安政元年（一八五四）生まれ、少年から学を好んだ。十八歳で単身上京、苦学して明治九年（一八七六）代言人（弁護士）試験に合格、明治十三年（一八八〇）東京法学社、後の法政大学を金丸鐵と共に創立した。大正元年（一九一二）杵築に帰り弁護士をしたという。

また、数学者でもある古原三平も煙硝倉に住んだ。三平は名で、諱を敏行という。文化五年（一八〇八）数学上達によって計正に昇進し、計吏として極めて清廉で、穏やかな人柄であった。死後関流数学の皆伝と杵築藩における宗統の免許状が与えられた。

三平の次男之剛のち山太（やまた）も数学を父に学び、また江戸の数学者馬場正統にも学んだ。父の死後（天保十二年＝一八四一）家を継ぎ、父と同じく関流数学の免許皆伝と杵築藩宗統の証状も受けた。明治元年（一八六八）王政復古、民政奉行となり同四年権大属、五年大分出仕になったが、間もなく病気により辞職した。父と同じく清廉潔白の人であった（新市誌・平成十七年発行）

23　貴布祢の坂（仮名・東下司か）

貴布祢社は『杵築市誌』では正元元年（一二五九）正月、木付城主大炊助親重が、安住養国禅寺建立の時、鎮守の神として山城国愛宕郡貴布祢神社の分霊を勧請し境内に祀った、とある。安住寺が現地に移ったのが延宝年間（一六七三～一六八〇）といわれ、貴布祢社が現地に移ったのが元禄七年（一六九四）というので安住寺との関係は深い。この坂は小字の貴布祢に因んで「貴布祢坂」というのでは、と地元の方がいう。

この坂は寺町各寺院の墓地の裏を廻っており、城下町南部西側の外郭をなしているのではないか。「城下町散策マップ」には書き込まれているが、名は書いていない。

この坂道と下原の坂・煙硝倉鶴の口坂が結ばれて、西の城下町境にしていたのではないか。調査の必要がある。

24　秋津屋の坂（仲町）

紺屋町坂の斜め前に酒造業「秋津屋」があった。その屋敷の奥から南台裏丁に通じる坂が一度折れて「くの字形」に上がっている。さほど古くはないが近年造られたものでもない。坂下に「秋津屋坂」と書いた立札が建っている。記録は探すが見当たらない。店の者が南台への行き来に使った坂道か。

◎城山台地への道

城山台地の出入口は『松井家先祖由来附』（八代市教育委員会・平成十一年発行）の慶長十九年（一六一四）の記録に「大手御門・町口大門・国東口冠木門」が記されているが、その設置場所は未だに確定していない。これでは門に通じる道が判らない。台山への坂道が判らないのである。

現在使っている坂道について記してみる。

25　城山坂石段（城山）

杵築中央病院前の道は杵築城の水堀を埋め立てて造った道である。何時埋め立てたか記録を見ていない。

水堀を跨ぐ現在の橋は、昭和四十一年（一九六六）に架橋されたもので、橋の正面に台地に上る石段がある。現在は下から二十六段で踊り場があり、そこから右斜めに二十二段上がるが、これは台地に市民会館が建築される時、付け替えられたもので、以前は真直ぐな石段だった。昭和十年（一九三五）の写真にも真直ぐな石段が見られる。こうした石段が何時の頃造られたか、記録を探

さねばならない。

26　城山車道（仮名・城山）

ほとんど調査に至っておらず、不明なことばかりだが、昭和四十一年に耐久性のある橋が水堀に架けられたということは、そこを通って大型資材が台山に運び込まれたことの証でもある。大型資材は昭和四十年（一九六五）二月着工された市民会館、及び昭和四十五年（一九七〇）十月に完成した杵築城天守である。これらの工事を進めるため大型の資材が運び込まれた。その搬入を可能にするための車道である。建設課に遺る資料を借りて調査し、記録して置くことが必要である。

27　城鼻の坂（仮名・城山）

台山の南、城鼻から三ノ丸に上がる道は『杵築史談第十五号』（昭和三十八年六月発行）に次の記述がある。

それによると大正八年（一九一九）に計画された『杵築城鎮記念碑建設並公園設備事業』によって開発されたもので、事業の内、この坂に就いて

「道路長五拾六間（一〇二m余）幅一間（一・八m余）但城鼻街路ヨリ公園ニ通ズル道路　この開鑿費五拾円、此石垣十坪築立費五拾円」

とあり、新たに二m幅の道路百m余が造られた。個人所有地（下司氏所有）は三十三坪買収した。

ここは慶長十九年（一六一四）の「町口門」があり町家に通じていたという説もあるが、この地には寛永九年（一六三二）木付城に入った小笠原忠知の時代から、譜代大名に預ける幕府米を貯蔵する「千石蔵」があり、町家に通じる道を設ける余地はなかったと思われる。大正八年計画の坂の規模は、現在の道路の長さ・幅とさほどの差違はなく、坂道は大正八年計画の道路と思われ、慶長のものではないと思われる。

28　城山観音坂（仮名・城山）

台山の北側にある屈折した小さな坂道である。

仮名ではあるが、「城山観音坂」としたのは、『松井家先祖由来附』に慶長五年（一六〇〇）九月、大友氏より木付城が攻められた時の記事の中に

「大手観音堂の下、百姓共逃散候跡（後略）」とあり、「大手下の観音堂」ではなく「大手観音堂の下」であるから、観音堂が大手にあった、ことになる。よって大手のあった個所に近い所に設けられた坂道を「城山観音坂」と仮の名を付した。この坂も、城鼻の坂」と同様、大正八年に計画された公園設備事業の一環として開鑿した。

計画書には

「道路長参拾間（五十四・六m）幅壱間、但旧城内観音堂ヨリ堀口迄、此修繕費五拾円」、同じく

「道路長七拾五間（一三六・五m）幅壱間、但堀口より公園迄、この開鑿費百五拾円」

この北の道は御殿庭に祀られた観音堂（大手にあった観音堂を御殿造りの際、庭に取り込んだ二嶌山に移座したのであろう）から堀口までを修繕し、台山の北の崖下に道を付けた。個人所有地（岐部氏）十八坪を買収している。

以上城下の坂二十八本について粗々記述しました。一部城下外もありますが、往還等密接な関係を持つ坂道を加えました。

「坂の町杵築」といわれているこの地に住みながら、これまで調べたことはありませんでしたが、『坂学会』の皆さんがお見えとのこと、黒田課長より声がかかりましたので、この機会に勉強してみようと思い立ち、それぞれの坂に関わる歴史的な事柄について史料等を拾ってみました。

もとより慌ただしく史料をめくり、急ぎ現地を歩き、古老の皆さんを尋ねましたが、坂に関わる史料は少なく、また、古い時代の事情を知る古老も少なく、思うに任せない調査・学習でしたが、この坂道が、こんな役割をもっていたのか、こんな人たちが坂道の維持管理に気遣っていたのか、等を知ることができました。これを機会に市役所等に保管する資料などを閲覧し、工事以前の状態を知り、また推定することも必要かと思われます。

「坂を知ることは、城下町のありようを知ること」だとの思いを強くしました。

調査不充分の上、粗雑な文面、御容赦下さい。

平成二十九年十一月　　杉安嘉正

参考図書

図書名	発行所	発行年
杵築市誌	杵築市教育委員会	昭和四三年
杵築城下案内	杵築市商工観光課編	昭和五八年
町人の生活	太田利男翻刻編	昭和五一年
追遠拾遺	是永六雅編著	天保四年
豊城世譜	是永六雅編著	天保五年
土居文庫文書	杵築市立図書館蔵	
杵築郷土史	杵築町教育会	昭和八年
杵築史考	前田光利編著	大正三年
杵築史談	代表士居寛申	昭和三四年
松井家先祖由来附	八代市教育委員会	平成十一年
中野家庄屋文書	杉安嘉正翻刻編	平成二三年
城下町絵図	金子忠告再修	天保九年
高瀬哲郎氏	元名護屋城博物館学芸課長	